

コミュニケーション実践論

[講義] 第1学年 前期 選択 夏期集中講義 2単位

《担当者名》清水友陽 (非常勤講師 shimizu-shinri@hoku-iryo-u.ac.jp)

【概要】

複雑性や不確実性が増す中、事前に決められた計画に従うだけでなく、その都度個別の「状況に応じる能力」が必要となる。心理的安全性を保ちながら、多様性を理解し、小さな差異や複雑性を残しつつ、協働して新たな関係を構築するスキルが求められる。

本講義では、演劇的手法を用いグループワークを中心に、実際に身体を動かしながら「主体的に判断し対応していく力」「創造する能力」「他者を想像しての対話」を身につけるための、実践的なコミュニケーションを学修する。

【学修目標】

自分自身を客観的に観察し、各自のコミュニケーションの方法を発見する。

キャリア形成の今日的意義を理解する。

他者を知り、相手を想像して伝達するためのスキルを身につける。

協働的なリーダーシップの視点を身につける。

心理的安全性に配慮した言動を身につける。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション	講義計画と講義の進め方、ループリックによる評価の説明。他者と関わるリスク、講義を進めるための「グランドルール」について考察する。心理的安全性に配慮した「場」について考察する。	清水友陽
2	非言語コミュニケーションを体験する	言語を用いないコミュニケーションを、シアターゲームのアクティビティを用いて体験・考察する。情報のインプット/アウトプットを体験・考察する。	清水友陽
3	インプロヴィゼーション(即興)を体験する	インプロの協働原則を共有した上で、アクティビティを体験・考察する。役割を交代(ロールチェンジ)して、他者の視点に立ってみる。	清水友陽
4	ノンバーバルな小作品の創作(前編)	小グループで、セリフのない簡単な創作・発表を行う。どのように伝わった/伝わらなかったか、観客的視点から考察し、ディスカッションを行う。	清水友陽
5	ノンバーバルな小作品の創作(後編)	4で行った創作を、他者の視点を取り入れリクリエイションする。トップダウン型と協働的リーダーシップについての考察、ディスカッションを行う。	清水友陽
6	権力とステイタスを体験する	リフレクションのスキルアップを図る。様々な形で社会に存在する、権力とステイタスの問題について、シアターゲームのアクティビティを用いて体験・考察する。	清水友陽
7	コンフリクトマネジメントの考察	コンフリクトマネジメントについて、条件・価値観・感情の観点から、アクティビティを用いて、体験・考察する。身近にどんな問題が潜んでいるかディスカッションを行う。	清水友陽
8	ストーリー(物語)とナラティブ(語り)を体験する	他者のストーリーに視点を置き、共通の物語を生み出し、それを自分の言葉で語ることを体験する。	清水友陽
9	取材劇の創作(前編)	6~8で考察したことを題材にして、取材劇を創作・発表する。どのように伝わった/伝わらなかったか、観客的視点から考察し、ディスカッションを行う。	清水友陽
10	取材劇の創作(後編)	9で行った創作を深める。観客の対象年齢や、文化、ステイタスを変えた想定で、創り変えてみる。創作についてのリフレクションを行う。	清水友陽
11	ポリフォニック(多声的)な構成の対話を体験する	自己分析による得意・不得意の考察。複数の視点で構成される対話について、体験し考察する。モノローグとの違いをディスカッションする。	清水友陽

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
12	ディスカッション・ドラマの創作 (前編)	グループに分かれ、ある設定を元に、ポリフォニックな構成の討論劇を書いてみる。	清水友陽
13	ディスカッション・ドラマの創作 (中編)	書き上げたドラマを、短編劇として創作・発表する。観客の意見を聞き、リライトする。	清水友陽
14	ディスカッション・ドラマの創作 (後編)	それぞれの作品がどのように伝わったのか、それはなぜか、ディスカッションを行う。	清水友陽
15	ふりかえり	この講義で何を体験し、またそれぞれの生活に置き換えた時に、どのように応用できるのか、それぞれの言葉で語る。	清水友陽

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部(研究科)、学環、学校の授業実施方針による

【評価方法】

各アクティビティ、創作グループワークへの参加意欲・態度 80%

グループワークに対する小レポート 20%

意欲・態度の評価は、ルーブリック表を用いて行う。演技の技術は問わない。

【教科書】

使用しない

【参考書】

使用しない

【備考】

適宜、講師による自作資料を使用する。

【学修の準備】

全ての時間、身体を使った実践的な体験学修となる。動きやすい服装で参加すること。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP5 対人支援における多職種連携の重要性を認識している。

DP2 豊かな人間性・自立性・創造性・協調性等を身につけている。

上記、心理科学部ディプロマ・ポリシーに適合している。

【実務経験】

北海道演劇財団専務理事・芸術監督。演出家、脚本家。演劇ワークショップ・ファシリテーター。

【実務経験を活かした教育内容】

演劇的手法を用いて、参加型の学修を行う。

様々な役割や人物を演じる体験をすることにより、考え方の異なる他者のことを想定したコミュニケーションを学修する。